

2025 年度前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

ペケレットから広がる石狩川下流域の生態系保全プロジェクト

石狩川河口湿地調査隊

本事業「ペケレットから広がる石狩川下流域の生態系保全プロジェクト」では、都市近郊に残された湿地生態系の価値を科学的に明らかにし、地域社会と共有することを目的として、2025 年 4 月から 2026 年 3 月にかけて多面的な自然環境調査を実施した。調査は、維管束植物相、鳥類相・地表徘徊性甲虫類ファウナ・湿地草原・樹林 水生植物群落、水など多様な項目にわたり、ペケレット湖および石狩川下流域の自然環境を総合的に把握した。

植物調査では、湖周辺の植物相を昨年度に続き精査し、1991 年調査との比較により植物相の変化を検討した。また札幌市内の他地域との比較から、ペケレット湖の植物相の特徴を明確化した。湿生林では、ハルニレやヤチダモなど樹齢 100 年を超える個体群が確認され、都市域に残存する原植生としての価値が再評価された。春植物や林床植物ではレッドリスト種を含む多様な種が記録され、保全対象としての重要性が示された。



ペケレット湖岸の早春のヤチダモ林（2026 年 4 月 17 日）。ミズバショウやエゾノリュウキンカが満開の様子。

水生植物と水環境の調査では、湖内の開水面区域における群落種組成構造を把握し、マツモやヒシが高い被度で繁茂する富栄養化湖沼特有の状態が確認された。水質では T-N 1.6 mg/L、T-P 0.21 mg/L と過栄養状態が示され、今後の水質改善策の検討に資する基礎データが得られた。さらに、流入・流出水路の水質測定により、物質収支解析に必要な初期データを入手した。

鳥類相および地表徘徊性甲虫類相の調査では、湖と周辺森林が複合する環境が多様な生物相を支えていることが明らかとなった。記録された種群は、湿地と森林の連続性が生態系の多様性維持に寄与していることを示し、地域生態系のつながりが重要な役割を果たしていることが推察された。

石狩川下流域のマクンベツ湿原の生態環境調査を実施し、ペケレット湖の湿地草原群落の位置づけを広域的視点から検討した。マクンベツ湿原との比較により、ペケレット湖の湿地草原が湿原群落ではなく攪乱後に成立しているが、道央部に残された希少な湿地であることが明確となった。またマクンベツ湿原で新品種記載されたハゴロモミズバショウがペケレット湖にも自生していることが発見された。

成果発信として、ペケレット・フォーラム「ペケレットから始まる都市の自然の再発見」を開催し、調査結果を市民・行政と共有した。参加者からは「都市の自然の再発見につながる」との反響が寄せられ、地域の自然環境への理解と関心を高める契機となった。また、北海道ボランティアレンジャー協議会の観察会や総会講演を通じ、地域団体との協働体制を強化した。

運営面では、大学研究者、市民団体、専門家が連携し、調査計画の調整、データ共有、成果発信を円滑に進めた。これらの協働は、今後の自然共生サイト認定に向けた基盤形成にも寄与した。

以上のように、本事業は湿地生態系の科学的理解を深めるとともに、地域社会との協働による保全意識の醸成に大きく貢献した。得られた成果は、今後の石狩川下流域の生態系保全と市民公開によるその価値の共有に向けた重要な基礎資料となる。